

# まちの森林(もり)作り 10 余年

— 住民ボランティア奮戦記 —



サンシティマンションのシンボル 樹木樹齢 350 年(推定)のスタジイ

- 本書は、まちの森林づくりに立ち上がった住民ボランティア活動の様々な試みと失敗、そしてささやかなる成功、都会の大規模集合住宅にある雑木林の管理を巡る苦闘と喜びを取りまとめたもの。

## — マンション管理組合必読・必携の書 —

- 都会の大規模高層マンション(12.4ha の敷地に、4.5ha の森林緑地。住居数 1877 戸、住民約 6200 人)にある森林緑地は、住民の憩いの楽園であったが、10 年も経つと樹林は密林化し、住宅周辺では日照障害などの問題が出てきた。これを自分達の手で解決する実行部隊として組織されたのが、ここの住民ボランティアであった。
- 都会のマンションの森林緑地の管理は、一般の森林管理や一般住宅の庭園管理とは異なり、様々な考えを持つ住民の合意形成を得ながら行うことが、基本であり、ボランティアのもっとも苦労するところという。

このため理事会の植栽委員を増やすとか、シンポジウムの開催、マスコミ取材などで、住民の植栽維持管理についての認識の高揚を図ってきた結果、合意形成は得られ易くなってきたが、いざ自らの身近な問題になってくると難航するのが現実である。

本書には、住民の合意形成を得るための過程が詳述される。

1. 炭焼きの実施、日蔭木の伐採と移植などでは、合意形成過程が不十分であり、思わぬところから反対運動が生じたこと、それを誠心誠意な対応とともに、炭窯の改良など技術的な面からの創意工夫を持って対応したこと
2. 横社会であるボランティアについては、マスコミの取材について十分配慮することも活動する上で重要であること

である。

このように同じような悩みを抱える住民ボランティアにとって汲み取るところの多いものとなっている。

- これまで、ボランティア活動は、炭焼き中止の危機など難問題に遭遇してきたが、一度灯した火は消さないと言う全員の強い意志と知恵と経験で乗り越えてきた。そして、ボランティアは、植栽維持管理のため、技術の習得に取組み、現在、植栽業者との作業割合は半々となったという。

いずれにせよボランティア活動は、参加意欲を失わないようなことが大事であり、ボランティア自身が作業を選択し参加できる仕組みとしている。焼きも会などで参加意欲を引き出し、マスコミ取材などは、特定の人での対応は避けるようにしている。

これらにより、団地の PR に加えて自分達の評価、社会的な貢献の意識高揚につながり、ボランティア活動の活性化に繋がっていくという。

著者 金本一夫・宮下國弘  
A5判:130 ページ(写真多数)  
2008 年2月1日初版発行  
定価 本体 1,200 円(税別)  
連絡先: (一社)日本森林技術協会 管理・普及部まで  
TEL: 03-3261-5414 FAX: 03-3261-5393